

平成28年度 第1回 奈良県公共事業評価監視委員会 議事録

1. 日時 平成28年11月21日(月) 14:00～16:00

2. 会場 奈良県経済倶楽部 5階 大会議室

3. 出席者

・ 委員(敬称略、五十音順)

大庭 哲治、川真田 リエ、畷川 安雄、下村 由加里、多々納 裕一、三浦 晴彦

・ 奈良県 県土マネジメント部長、まちづくり推進局次長

砂防・災害対策課、地域デザイン推進課、道路建設課、技術管理課

4. 議事

(1) 委員会の運営について

1) 平成28年度公共事業評価監視委員会構成員確認

2) 平成28年度再評価等対象事業説明

(2) 泉谷川 砂防事業

1) 再評価に関する説明(砂防・災害対策課)

2) 再評価に関する審議

(三浦委員) 社会情勢の変化という点ですが、対象となる区域の家屋戸数が事業当初から変わっていないという現状ですが、今後20～30年を考えた時、現在17戸ですが、今後少子高齢化の影響で減ってくる可能性があると思うが、どの程度影響を考えているのか。今後世帯数が減ってきたら便益も減ってくる可能性もあり、あまりにも減ってくれば、安全なところに移転ということもありえるが、現状17世帯の平均年齢等、状況を教えていただきたい。

(砂防・災害対策課) 17世帯の年齢構成については、確認できていないので、わからない。

上北山村の全体の概ねの年齢構成は60～80歳ぐらいが現在大きな山になっている。

5年前の再評価以前は18戸であり、現在17戸になっている。

B/Cの算出に関しては、人口減の影響については、現在のところ勘案はしていない。

(多々納委員長) 勘案していないことはわかったが、しなくても良いのか。例えば残事業のB/Cだけを考えた時に、何戸まで減るとB/Cが1を切るのか。

(砂防・災害対策課) 人家戸数17戸、便益11億円ぐらいの数字になっている。

B/Cの計算については、全体で割り振りをしている部分もあるので、単純に人口が減ればその部分の便益が減るという状況ではないので、すぐにはお答えできない。

(多々納委員長) 了解した。次回もあるので、そちらの方で答えていただければ良い。

人口が減少している状況で、このような事業をやる際に、先行投資もあるが、これから投資する分について、継続した方がいいのかそうでないのかを判断していく時に、将来想定される状況を考えなくても良いのかというご質問である。

この程度の人口減だったら、大丈夫だとか、そうではないのか、それぐらいの見透しの話はできるのではないのか。そのあたりのコメントをいただければと思う。

(砂防・災害対策課) 単純に計算できる状況ではないが、試算はできるのではないかと考えている。

(多々納委員長) それで結構です。感度分析を少しやってみて、それでもやはり効果が認められるとなれば、このまま事業継続でも良いし、将来の整備の仕方も考えるということであればそれでも良いし、現時点においてはそのあたりを確認しましたというところを議論しておきたい。

(大庭委員) 二点ほど、質問をさせていただきたい。

一点目は、スライドの3ページ、事業の概要の資料の中の100年超過確率の降雨量についてですが、この事業の土砂整備率の母数になっている重要なデータですが、まずいつ時点のデータか。また、このデータは変わらないデータであるのか。

最近ゲリラ豪雨で雨が増えているのか増えていないのかわからないが、確率の問題なので大きく変わることはないが、ただ変わるとすれば母数も整備率も変わるので、そのあたりはどう考えているか。

二点目は、スライドの10ページ、透過型と不透過型の堰堤があるが、一般的に透過型の方が近年トレンドなのか。一長一短があって、このケースでは透過型が望ましくてコスト削減につながっているのか、それとももうこれからのトレンドは透過型なのか。要はコスト削減にあげて良い素材なのか、このあたりはどうか。

(砂防・災害対策課) まず一点目についてですが、事業着手が平成18年度であるので、平成18年度以前のデータを使って計画をさせていただいているところであり、その後の変更は行っていない。

二点目は、最近潮流としては、透過型堰堤をできるだけ使うような方向性はある。不透過型砂防堰堤は土砂が堆積することによって谷の左右岸の足下を押しやるという効果がある。場所によってはこちら側が良いという場合もある。

この溪流がたまたま土砂の堆積を溪流内にしていることが多いので、谷の左右岸を保護するより流れてきたものを受け止めた方が効果的だし、この場所では施工できるということで透過型を選択している。必ずしも透過型、不透過型いずれかでなければならないということではないので、透過型を積極的に使用するという観点から、コスト削減ということで載せていただいている。

(多々納委員長) 一点目は降雨の変化を検討しなくても良いか、二点目は当初から変更してコスト削減という観点から透過型にしているものがあるが、それはそもそも適切な選択になっていますかという質問であった。

前者の部分は平成18年以前の計画なので、それ以降は見ておりませんとのことですが、大庭委員これでよろしいですか。

(大庭委員) 計算方法がどうなっているのかわからない。

前提となるデータが更新されているだとか、もし最新のデータがあるのであれば、それに基づいた時はどうなるのかを確認しておいた方が、整備率に影響するので重要ではないかと思う。

(多々納委員長) この種の場合、必要性の変化というのがどういうふうにあるのかという観点がありますが、近年懸念されることとしては、確かに降雨の変化があります。

県民目線の観点から言えば、お答えになった方が良い内容だと思います。

これについては、データが取れるかどうかになるが、降雨解析はアメダスですか。

(砂防・災害対策課) 降雨解析は、地上雨量計のデータを積算しながら行っている。事業の実施という観点から、流域全体の中を基本的に着手した時には、一つの降雨条件で解析し、概ね完成するまでの間は同じデータを使ってきたというのが今までのやり方である。ご指摘のとおり、近年降雨量が多くなっているところが懸念されるので、そういう観点で確認をしていくという作業についてはしないといけないのかなと考えている。

(多々納委員長) その作業は可能か。

(砂防・災害対策課) 可能、不可能も含めて、検討させていただく。

(鳶川委員) 当初は11年前18戸あったが、今も17戸で住んでおられるが、仮に17戸の家が、全部人が誰も住んでいない状況で、先にあった土砂崩れが時々起こっているような状況の場合には、こういう工事は放っておくのか。

というのは、人的な被害、財産的な被害を前提にして工事が始まっているが、そうでない工事を目にしたような記憶もあるが。

人が仮に今住んでいなくても、工事の継続性というのは審議の対象になるのか、教えていただけないか。

(砂防・災害対策課) 土石流対策ということで、直接氾濫被害の中に、家屋があるとか、公共施設がある、家とか道路とか、直接被害を受けるものがあるという観点から計算させていただいている。ご指摘のとおり、人家が0という状況の場合は、その目的では実施しない

のではないかとと思いますが、ただもし場所が違うという観点から整理した場合、真下には人家がなくても、実施するためによって効果があると判断されるものも出てくると思う。北山川が横に流れているが、そこに土砂が流出することによって、下流側に土砂が流れて被害をもっともたらすというのが大きな流域への被害を考えた場合、この泉谷川のこの砂防施設は非常に効果が高いと判断された場合においては、必ずしも人家がなくても実施される場合もある。

どういうところに効果があるのかというところを、流域の状況を勘案しながら、選定し、事業を実施していくことになると思う。

(多々納委員長) 被害対象家屋が並んでいる写真があるが、川筋が一時屈曲しているの、対象家屋は被害想定区域の黄色のところだけだが、伊豆大島の土石流とか、近年の状況を見てみると流域界を越えて、土石流が移動しているのもありうるのですが、ここでは絶対に流域外には流出しないのか。

(砂防・災害対策課) 絶対ないとは言えないが、高低差の観点から言うと、通常の土石流では流域を飛び越えることは、あまり考えられないのかなと思っている。

(多々納委員長) 相当高いのか。

(砂防・災害対策課) はい。

(多々納委員長) そうことも少しわかるようにしていただきたい。

今の整備をすると、そもそも土砂量の生成量が減っているの、大量の土石流が流域外に流れるのは考えにくくなっているのかもしれない。言い方を替えると今の整備によってある種こちら側の流域外についても守っていると言えるのかもしれない。

(下村委員) 旧国道ということで、参考資料の方にあがっているが、これは何号線にあたるのか。

(砂防・災害対策課) 旧国道169号です。

(下村委員) 上北山村のこのエリアというのは、救助をされる方をベースとした話になっているが、それとはまた別の形で、下北山村等に対して、今のリゾートである例えばキャンプであったり、奈良県として十津川周辺に向けての一つのイベントなど、それがすごく活気を帯びていると思う。その点をとらえた時に、冬場は心配ないが、特に夏場、春場に何かある場合を考えた時に被害想定区域が、特に道路をカバーしているのはとても大事なのではないかと考えている。これに近接する道路等があればご説明いただきたい。

(砂防・災害対策課) 主要道路としては、現国道を道路トンネルで抜けていくのですが、その主要の国道自体は被害想定範囲には現在のところは入っていないが、通行止め等になった時には、委員ご発言のとおり、氾濫区域の中の旧国道も通ることもあり得る気がする。

(多々納委員長) 主要な国道の方はトンネルで抜いているので、そちらの効果には入りにくいですが、旧道の方は費用対効果の便益の中に含めているのか。

(砂防・災害対策課) 一応含めているが、下村委員ご指摘のとおり、観光に対する影響については、算出が難しいため、現在便益の中には加えていない。

(多々納委員長) 保留とし、次回委員会において再審議する。

3) 意見集約

次回委員会において、再審議とする。

(3) 都市計画道路 城廻り線の再評価について

1) 再評価に関する説明 (地域デザイン推進課)

2) 再評価に関する審議

(多々納委員長) 当初と現状で事業の必要性について変更になっているところがありますか。

(地域デザイン推進課) 平成24年の時と渋滞、歩行者の安全、緊急輸送道路としての検討は変更ありません。

(多々納委員長) 次回からは事業の必要性の変更があったかどうかを示す必要があります。

(大庭委員) 事業の進捗について、用地買収率が100%になる見込みはいつになりますか。
また、アンダーパスを作るということですが、埋蔵文化財が発見されたときなど、事業完了が遅れたときの対応はどうするのですか。

(地域デザイン推進課) 用地買収については鋭意を進めており、今年度中に80%を目標にしています。また、スライドP.5に現在の状況を記載していますが、文化財保存課と協議しており、事業を進めるにあたって問題はありません。

(多々納委員長) 当初計画の見込みと現状の差はどのようになっていますか。また、B/Cは1.1ですが、文化財が見つければB/CのCが大きくなると思いますが、見込んでいますか。

(地域デザイン推進課) 用地買収については計画通りです。また、文化財については、買収したところから工事を進めています、特に問題もありません。

(三浦委員) 渋滞や開かずの踏切対策でアンダーパスにするということですが、この場合鉄道事業者の負担はありますか。

(地域デザイン推進課) 今回の計画では鉄道事業者の負担はありません。

(三浦委員) 仮に鉄道を高架にした場合はどうですか。

(地域デザイン推進課) 3%や7%くらいの負担を求めることもあります。(連立立体事業)

(多々納委員長) 高架の場合かなり高額になるので、今回はいろいろ検討した結果アンダーパスを選択したということですか。

(地域デザイン推進課) はい、経済性やまわりの景観を考慮し今回はアンダーパスを選択しました。

(大庭委員) 城の近くということで無電柱化等景観に配慮する中で、舗装等ほかにデザインを考慮したところがありますか。

(地域デザイン推進課) 郡山城の堀の部分の緑化を行い、城が地上から見えるようにアンダーパスを選択しています。

(多々納委員長) 景観への配慮については無電柱化についてしか説明がなかったため、アンダーパスの選択等、どの程度検討しているのかについてもより説明していただきたいです。

(多々納委員長) 大和郡山市など付近市町村からの意見はありましたか。

(地域デザイン推進課) 大和郡山市長からも渋滞対策等を進めてほしいとの意見をいただいています。

(多々納委員長) そのような内容も事業の必要性のなかで可能であれば、説明に盛り込んでいただきたいです。

当初計画との必要性の変化があるのか、またデザインの工夫についての説明がよりあるとよかったですと思います。

それでは本事業については原案通り事業継続という形でお願いします。

次回もあるので、以上の2点について補足説明をお願いいたします。

3) 意見集約

事業継続を妥当とする。

次回委員会において、補足説明を行うものとする。

(4) 国道168号小平尾バイパス、王寺道路、香芝王寺道路の再評価について

1) 再評価に関する説明（道路建設課）

2) 再評価に関する審議

(多々納委員長) これらの事業の完成見込時期については、触れられてないように思います。教えていただけますか。

(道路建設課) 説明が漏れていました。資料の16ページにて完成見込時期について記載しています。

(多々納委員長) それは当初あるいは前回評価時に比べて延びていますか。

(道路建設課) 前回平成23年度に評価いただき、その時点に比べては若干延びています。

(多々納委員長) 事業の必要性に関して、当初から必要性があると思って着手されたと思いますが、再評価の場合、事業の必要性の変化についても、着目していきたいと考えています。その点はいかがですか。

(道路建設課) 当初及び前回再評価時から混雑度や交通の割合が増しており、事業の必要性についても、年々増加傾向にあります。

(多々納委員長) 費用の面についてはどうですか。

(道路建設課) 費用については、用地買収の関係で増えている工区もあります。

(多々納委員長) B/Cについて、年々変化するものであるので、最新のものを提示していただきたい。

(下村委員) 資料6、7に道路沿いの写真がありますが、店舗が増えているように見えます。店舗が増えると、用地買収にかかる費用も高額になるのではないのでしょうか。

(道路建設課) 都市計画決定をしているので、二階建てを越える建造物は建てられないこととなっております。また店舗を建てる際には、許可が必要になります。その上で、高架にかかる場所に店舗を建てる場合、建物を道路から引いて建ててもらい、道路に面した箇

所は駐車場にしてもらおう計画もあります。幹線道路沿いですので、商業用店舗の増加は見込まれますが、大幅な費用増にはならないと考えています。

(下村委員) 沿線上に店舗数が増加し、多少なりとも用地にかかる費用が増加するのであれば、早期に完成させることが費用を抑えることになるのではないのでしょうか。

(道路建設課) 実際少し工期は延びてきているが、奈良県道路整備基本計画の中の骨格幹線道路ネットワークとしては、概ね10年での集中整備を進めることとしています。

(川真田委員) 使う頻度が多い道なので、早く整備をしていただきたいです。道路によっては供用されている箇所もあり、用地買収が滞っているところは少ないのではないのでしょうか。

(道路建設課) 王寺道路についてはほぼ完成しており、香芝王寺道路に関しては2工区の香芝インター周辺から着工しています。1工区や3工区については目に見えての進捗はありません。

(多々納委員長) 王寺道路について、平成13年の着工開始後、時間がかかっているように見えますが、何か特殊な事情があつてのことでしょうか。また、供用区間があるにも関わらず、事業全体の総便益と残事業の総便益の金額が等しいのは何故ですか。

(道路建設課) 王寺道路につきましては、用地買収時に代替地の要求があり、買収に時間を要しております。事業認定を受け、収用手続きを進めることにより、用地買収完了の目途をつけていきたいと考えております。総便益の金額については、確認します。

(多々納委員長) 渋滞解消の視点から考えれば、一部車線の少ない箇所がボトルネックとなり、総便益に影響していると考えられるかもしれませんが、交通安全の面から考えると、供用箇所は便益が上がらないとおかしいのではないのでしょうか。供用区間箇所のある工事にかかる便益について、第2回監視委員会までに検討いただきたい。

3) 意見集約

事業継続を妥当とする。

次回委員会において、補足説明を行うものとする。